

企業 zoom UP

第567回

リエゾン・パートナーズ

— シニア向け住宅事業分野の担い手
“リエゾン(=橋渡し)”

高齢化の進行。日本が抱える構造問題の解をすぐに求めるのは容易ではなく、それだけに、親そして自らの老後について自己の問題として考え、対策を講じる準備をしなければならない。今後、民間のシニア住宅分野でのサービスの多様化に期待が持たれるところだ。

リエゾン・パートナーズ(株)は2005年の設立以来、高齢者向け住宅・施設に特化したアセットマネジメントを主業として、介護事業者と資金提供者を橋渡す様々な業務を手がけてきた。ファンドやJ-REIT向けにアドバイスをを行うなかで、これまで培ってきたノウハウを生かして経営の傾いた老人ホームの正常化や幅広いネットワークを使ったM&Aのアドバイザリー業務も展開。「金融+不動産」を強みとした様々な実績を有する。

こうして、主に投資家の運用をサポートするポジションで基盤を築いてきた当社だが、昨年、自らが投資主体となる「日本シニア住宅リース(株)」を子会社として立ち上げ、新しい仕組みによる高齢者向け住宅・施設に特化した建物リース事業に参入。介護事業者の資金調達にフォーカスした事業展開を進めている。

また、当社は超高齢社会における“個”にも目を向け、これまでのB to Bビジネスに加え「シニアの住み替え」という利用者のテーマに正面から取り組むため、新会社「ス・ワンダフル(株)」を設立、シニア住宅分野でのB to Cへ事業領域を広げようとしている。



新会社「ス・ワンダフル」は秋元社長お気に入りのジャズスタンダード曲「's Wonderful」から。利用者からこの言葉が出るようなサービスを目指す

「シニアの住み替え」は、家財の整理、不動産の処分や相続対策など、様々な事前の備えが多岐にわたる。新会社は、そうした利用者の住み替えに伴うあらゆる課題に対して的確なソリューションを提供するワンストップ型のサービス・プロバイダーを目指している。

「現状で住み替えが上手くいっている人は少ないと思う」と話す秋元社長は、「利用者が、心から満足できる住まいと住まい方を見つけ、人生の最終章を幸福に過ごせるよう“個”へのサポートを図りたい」と構想を語る。

先行き不透明感の漂う社会のなか、先々の不安を抱えず最後まで自分らしく暮らせたなら、その人生は何と幸せなことか。介護事業者に対しては資金の橋渡しを、そして利用者に対しては住み替えにおける水先案内人となるべく、事業の幅を広げる当社。いやが応にも、その存在感は高まっていくだろう。

(取材・文/東京支社情報部 下 麻奈美)

会社概要

リエゾン・パートナーズ(株)
 企業コード：987223530
 東京都港区虎ノ門3-20-5、電話03-5777-6421
 秋元二郎社長
 設立：2005年3月、資本金：1000万円
 事業内容：シニアリビング事業分野における投資、資金調達、M&A等に係る各種アドバイザリー業
 年売上高：約3億円(2014年8月期(連結)見込み)
<http://www.liaison-partners.com/>